

# 慈明院寺報九月号

ひがん いた  
彼岸に到る



もうすぐ秋のお彼岸。彼岸という名前の由来は、古代インドで使用されたサンスクリット語の「波羅蜜（パーラミタ）」からきている。これは日本語に訳すと「到彼岸（彼岸に到る）」という意味である。人間が生きている世界を此岸（こちらの岸）といい、仏様の住む悟りの世界を彼岸（あちらの岸）という。彼岸に到るとは悟りの岸に行くために、仏道修行に励む事を指す。

この彼岸に行う修行を六波羅蜜と呼ぶ。六つの修行を行う事で、仏のように穏やかで平和な生活を得る事ができるという。六つの修行とは次の通り。

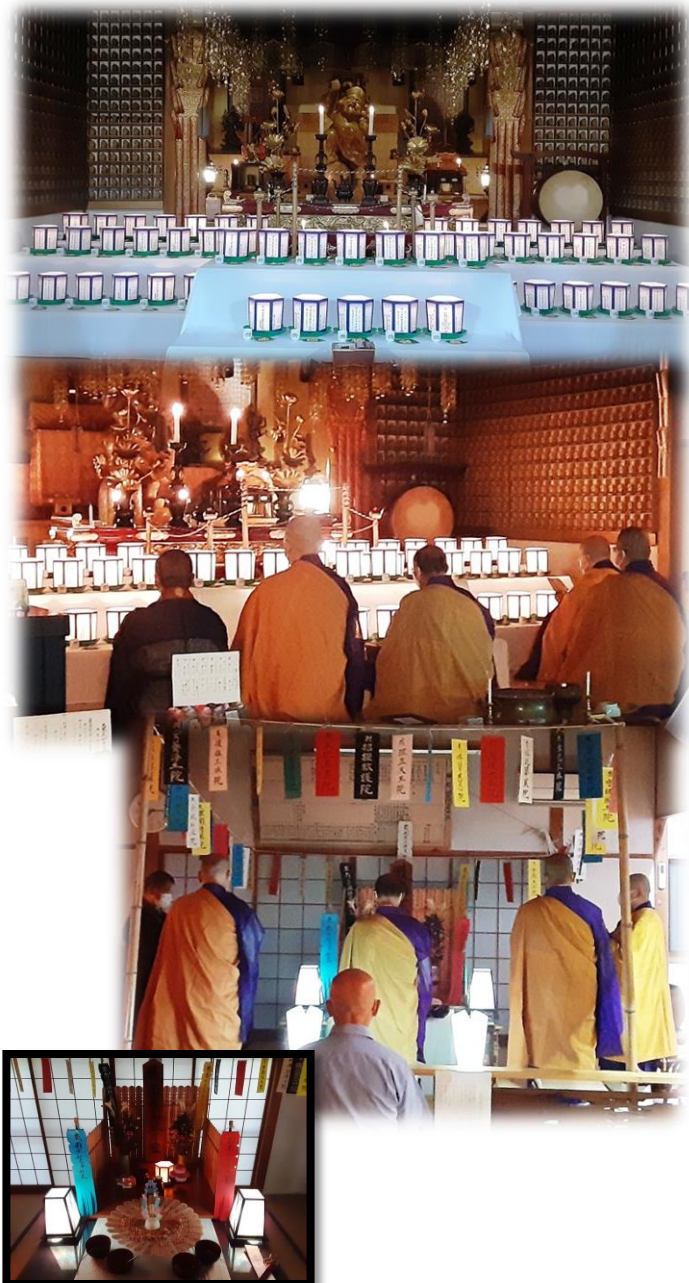
- ① 布施の修行（欲から離れて他人に親切を心掛け、分かち合う心を育む）
- ② 持戒の修行（戒めや決められた事を守り、約束を守る心を育む）
- ③ 忍辱の修行（忍耐を心掛けて、怒りにまかせた短気をおこさない心を育む）
- ④ 精進の修行（努力をおこたることなく、コツコツ進んでいく心を育む）
- ⑤ 禅定の修行（精神を落ち着けて心が散乱する事なく、反省する心を育む）
- ⑥ 智慧の修行（愚痴を言わず、嫉妬や恨みの心を鎮め、自己修養の心を育む）

この六波羅蜜の修行によって、彼岸にいらつしやる仏様のような生活を目指す事が、お彼岸の目的であった。春分・秋分の日には昼夜の長さが同じである。かたよる事なくバランスのとれた心で、日々を送る事がお彼岸の教えといえる。もちろんお墓まいりやご先祖様の供養も、六波羅蜜の修行と同じ仏様の心を育てる修行であらう。

今年は本当に様々な出来事が起こり、人の心について考えさせられる。もしみんなが彼岸の修行を行わずならば、この世にも仏の世界ができるだろう。

住職 合掌

令和四年七月三十日（お施餓鬼） 灯籠供養を勤めました。今年は四人の僧侶にご助法頂き、無事に法会を行いました。灯籠供養をお申し込み頂いた皆様、あるいはお盆まいりでお世話になった皆様に厚く御礼を申し上げます。またコロナの流行に伴い、療養なされている皆様にお見舞い申し上げます。



しゅうきひがん とうばくようほうえ  
秋季彼岸・塔婆供養法会のご案内（別紙参照）



来る 令和四年 九月二十三日（金曜日）秋分の日

午前十一時より

どなたでも塔婆のお申し込み、当日のご参拝は出来ます。案内状をご参照頂き、宜しければお参り下さいませ。（昼食、大黒饅頭をお接待致します）

じみょういん

慈明院（〒八一一一三三 福岡市早良区大字西二三四一・二〇）

TEL（〇九二）八〇四・四五七〇 FAX（〇九二）八〇四・四六〇五

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇・（五二八一）・七四九四